opusdei.org

## 属人区長の手紙 (2015年1月)

一月の書簡で、属人区長は、 始まったばかりの家族のない のマリア年に特に言及し、 『イエス、マリア、ヨセセス ま三方という聖ホセマリア。 言葉を引用なさっています。

2015/01/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 降誕節にしたためるこの手紙は創立 者の言葉で始めることにします。

「神の御子の御誕生をめぐるいろいろな出来事は私たちに様々なことを思い起こさせ、馬小屋やナザよすして、あれたちの視線をひきつけますイで、ヨゼフ、幼れたちは心を奪われて、る私たちは心を奪われて気のようで、この節に値する聖家族の御生活は何を教えようとしているのでしょうか。」[1]

この言葉は、この非常に家族的な祝日の雰囲気に浸るよう促しまに浸るようの雰囲気に浸る主のご降誕について降証になりと黙想しまいではいままりと黙想してが、人類は出いです。とまないです。では、人愛は、私に対するでは、人愛は、私に対してがいるがられないものがられないものがられな人間としておりに

なった主に対しては、常に感謝ある のみです。クリスマス前日のミサの 集会祈願でこう唱えました。「主イ エスよ、早く来てください。あなた の愛に信頼を置く人々が、あなたを 迎えて力づけられ、喜びに満たされ ますように。」[2]私たち一人ひと りが、パウロにquid moraris?[3] 何をためらっているのですか、と問 いかけたアナニアのようにすべきだ と感じるのは当然なことでしょう。 聖母と聖ヨゼフにお願いしましょ う。いつも、キリストと共にあり、 キリストを求めることが急務である と自覚できるようにしてください、 کے

1月1日の今日は主が私たちの母としてくださった神の御母の大祝日です。聖母は父なる神のお選びによって、御独り子が聖霊の御働きで人になるための道具となりました。マリアに対しても感謝します。お告げの時のお答えと十字架の下に黙してた

たずまれたお力で、私たちに神との 父子(おやこ)関係の小道を開いて下 さったのですから。聖ホセマリアの 言葉で感謝を表しましょう。「お母 さま、あなたはあの『なれかし』の 一言で、私どもを神の兄弟、神の栄 光の世継ぎとしてくださった。御身 は祝せられさせたまえ。」[4]

オプス・デイでは、教会と世界にお ける家庭の召し出しと使命に関する 秋の通常司教総会の実りを願って全 教会と共に祈るためマリア年を開催 することにしました。あらゆる人々 が、社会の基礎細胞である家庭の代 替不能な価値を再認識するよう、聖 母の執り成しを熱心に願いましょ う。キリスト信者の家庭が、家庭に 関する神のお望みを再確認し、それ を受け入れるなら、人々や国々に影 響を及ぼしている悪い事柄を正すこ とができるでしょう。

聖ヨハネ・パウロ二世は、着座間もない頃、ファミリー・オリエンテーションのコースに参加していた夫婦たちとの謁見で「教会と人類の未主」[5]とおっした。その後、長します」に5]とおっい統治期間中、同じテーマを色々な形で取り上げられました。1980年のシノドスの実りとして、使徒的勧告「家庭一愛といのちのきな」

ている緊急な呼びかけで締めくくっておられます。「家庭よ、本来の姿になりなさい。」[7]

いつも神の御助けを仰ぐのに適して いますが、人に対する神のご計画が 燦然と輝き出ている降誕祭の時季 は、そのためのより相応しい時だと いえます。天使たちが羊飼いたちに 告げました。「民全体に与えられる 大きな喜びを告げる。今日ダビデの 町で、あなた方のために救い主がお 生まれになった。この方こそ主メシ アである。| [8] このよい知らせは 全人類にあてられたものです。聖ル 力は簡潔にこう語ります。「急いで 行って、マリアとヨゼフ、また飼い 葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し 当てた。| [9]最初に神は同等の尊 厳を有する男女を創造し、人間の家 庭を造って、物質界を支配させ、地 を満たすようにとお命じになりまし た[10]。家庭の基盤はここにある のです。しかし、ベトレヘムの出来 事は、それにより高い意味を加えます。神ご自身が無限のへりくだりのうちに、一家庭で人となり、普通の人間生活を送ることを表明し、ベトレヘムの家庭を地上の全家庭の模範とされたのです。

教皇フランシスコは、このテーマに ついての要理指導をこうお始めにな りました。「神の御子が人となられ たことは、普遍的な男女の歴史を新 たにしました。この新たな歩みはナ ザレの一家族の中で始まりました。 イエスはある家庭でお生まれになっ たのです。主は、将軍や皇帝などの ように荘厳にお降りになることもで きたはずです。しかし、それとは まったく違い、ある家庭の一人の子 どもとして出になります。ですか ら、馬小屋のこの極めて美しい場面 に目を凝らすことが重要なので す。」[11]

「イエスのご誕生は、聖書に書いて あるように、時が満ちたことを示し ています(ガラタス4.4参照)。それ は、父なる神が御自分の御子を与え ることによって、人類への全き愛を お示しになるために選ばれた時なの です。神の御意志は、母になろうと している婦人、一つの家族、一軒の 家というごく普通の平凡な状況の中 で実現されたのです。神の御威光・ 神の御力は、人間性を通して人間に 一致しました。それ以来キリスト信 者は、神の御恵みによって、現実の 生活を全て聖化し得るだけでなく、 聖化しなければならないことを知り ました。どんなに小さくつまらなく 見えても、キリストとの出会いや天 国への階段を昇る機会となり得ない ような事柄はないのです。| [12]

夫婦の一致は、人間創造の時に神によって定められたことですが、嘆かわしいことに、今、あらゆるところで疎かにされています。家庭が何と

先週の日曜日は聖家族の祭日でした。その日、創立者の定めに従って、私たちの両親、兄弟姉妹を聖家族の禁止まることを更新しましたちないる多いでありに一致のように、私たちのこのそしてのようにつものとすがしているが、が、が、とないで示された神の模範に適っ

たものとなり、そのように生きることができるよう、お願いしました。

このマリア年には特にこの意向のため祈りましょう。このことをいつも意識して過ごすためには何らかの財 持が役に立つでしょう。創立者は度々こう祈りました。「イエス、一まで、ヨゼフ、お三方といつもない」。この世の全ての家族のため、ナザレの聖家族のご保護を常にしつっこくお願いしましょう。

この祈りを捧げる時には、為政者や国際機関で働いる人たち、社会の基礎細胞である家庭を安全に見祈る責任のあるたちにしましたがである。 高責任のあるたちにしましたがでいる大学のであるができたができたがある。 ことに開かれている大学のに相ができたがではないではない。 教育を子どもにする両親の権利が全なではない。 変に守られ、法律は、家庭のはないではない。 進展を邪魔しないた時に定めた。 が家庭を造られた時に定めた 目的達成を助けるものであるように 神にお願いしましょう。

社会の再福音化にきっぱりと取り組 むことが必要ですが、まず、各家庭 で始めましょう。「キリスト者の各 家庭は一マリアとヨゼフがなさった ように一、何よりもまずイエスをお 迎えし、主に耳を傾け、主と語り合 い、主を大事にし、主を守り、主と 共に成長していきます。こうして世 の中は良くなっていくのです。| [1 3]各自が家庭で、聖家族の祭日の 聖書朗読で思い起こさせてくれた諸 徳を細やかに実行すべきです。「あ なた方は神に選ばれ、聖なるものと され、愛されているのですから、憐 れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容 を身につけなさい。互いに忍び合 い、責めるべきことがあっても、赦 し合いなさい。主があなた方を赦し てくださったように、あなた方も同 じようにしなさい。これら全てに加 えて、愛を身につけなさい。愛は、

全てを完成させるきずなです。また、キリストの平和があなた方の心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなた方は招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。」[14]

「単にオプス・デイは神的な人間の 家族である、と言っているのではあ りません。オプス・デイには、神の ふんだんな祝福で多くの子どもに恵 まれた普通の家庭に見られるように、背の高い人や低い人、色黒の人もおれば金髪の人もいます(・・・)。その上、傍らには、私たちが愛して止まない親戚、協力者がいる(・・・)し、さらに、友達や同僚も何らかの形で私たちの家族に属しているのです。」[15]

私たち皆が、一緒に住んでいる人た ち、あるいは何らかの理由で近くに いる人たちとの共同生活を和やかな ものにするよう努めなければなりま せん。「心の中に、そして日々の仕 事の中に主のための場所を作りま しょう。マリアとヨゼフもそうなさ いましたが、簡単ではなかったはず です。どれほど多くの困難を克服し なければならなかったことでしょ う。偽りの家族でも、架空の家族で もなかったのです。ナザレの家族 は、私たちを、家族、そう全ての家 族の召し出しと使命を再認識するよ うに仕向けます。| [16]

聖母と聖ヨゼフの執り成しを通して 主にお願いしましょう。オプス・デ イのセンターやオプス・デイの他の メンバーと協力者の家、友だちや親 戚の家、そして全てのキリスト信者 の家庭が、聖家族の模範を映し出す ものであるように、と。イエス、マ リア、ヨゼフのことを考えると、三 人がなさったように、周りの人たち に心を配るように促されます。 日々、彼等のために祈り、霊的物的 に必要なことや休息に気を配らなけ ればなりません。家の整理整頓やイ ンテリアはナザレの家庭を彷彿させ るものであるべきです。これらの義 務を重荷のように考えるのではな く、什えるための素晴しい機会にし なければなりません。

イエス・キリストがお過ごしになった ナザレの家庭は、愛情に満ちた数々 の細やかな配慮をしあう家でした。 公生活をお始めになったとき、主の 家族を知っていた人々は言ったので した。「この人は大工の息子ではないか。母親はマリアと言うで従っている私たってに従々とも見たたるのでしたのででの表に、人というの様に、ないががと言ういなででででいる人とです。と素晴しいってががというのもないのもないのもないのもないのもないのもところででいるところです。

9日は聖ホセマリアの生誕記念日です。創立者は、私たちに伝えてくれた家族の一致のための細やかな心遣いを、バルバストロとログローニョの家庭で会得したのです。神の素直な道具として聖ホセマリアの人間的・超自然的な形成に携われたご両親にも感謝することです。

教皇様のご意向に一致して祈りま しょう。また、教会が修道者と奉献 生活者のために捧げた今年、彼等の ためにも、聖母を全面的に信頼して 祈ることにしましょう。

創立者の次の言葉を心に刻みつけ、 各家庭に初代信者の精神が受け継が れるよう願いましょう。彼らは「小 さいながらも福音の教えを述べ伝え る輝かしい存在でした。それは当時 の多くの家庭と同じものではありま したが、新しい精神で活気づいてお り、知り合いや交際している人々 に、その精神を広めていったのでし た。私たち現代のキリスト信者も彼 等にならわねばなりません。つま り、キリストがお与えになった平和 と喜びを人々に振りまく人でなけれ ばならないのです。」[18]

数日前パンプロナに行き病人たちを 見舞い、また大学の総合体育館でお よそ2,500人の人と出会い、神への感 謝に満ちた創立者のまなざしを思い 出しました。出向いた先々で、神と 人々に仕えるためしっかりと一致している「私たち固有の家」を感じ、 心和みました。

心からの愛を込めて祝福を送り、私 の諸々の意向のため祈り続けるよう お願いします。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2015年1月1日

[1] 聖ホセマリア、『知識の香』22番。

[2] ローマミサ典書、12月24日の集 会祈願。

[3] 使徒言行録 22,16。

[4] 聖ホセマリア、『道』512番。

- [5] 聖ヨハネ・パウロ二世、1978年 10月30日私的謁見での講話。
- [6] 聖ヨハネ・パウロ二世、年月日 使徒的勧告「家庭――愛といのちの きずな」17番。
- [7] 同上。
- [8] ルカ 2,11。
- [9]ルカ2,16。
- [10]創世記1,26-28参照。
- [11] 教皇フランシスコ、2014年12 月17日一般謁見の講話。
- [12] 聖ホセマリア、『知識の香』22番。
- [13] 教皇フランシスコ、2014年12 月17日一般謁見の講話。
- [14] コロサイ 3,12-15。

[15] 聖ホセマリア、1963年3月5日 説教のメモ。

[16] 教皇フランシスコ、2014年12 月17日一般謁見の講話。

[17]マタイ13,55。

[18] 聖ホセマリア、『知識の香』30番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/tsukinotegami-2015-1/(2025/12/16)